

(IV) この方法は Psychotherapy といわれる一般的なものの実施方法よりいくつかの利点をもっているものであること。

(V) この指導法の実施期間として最も適切で且つ効果ある期間は入学当初から六か月ないし九か月の期間であること。

(VI) このプログラムは小学校の、ことに入学当初から六か月ないし九か月にわたつての教育形態としてカリキュラムのうちに正常な位置を占めておこなわれるべきものであること。

父親の幼児養育

関与度に関する階層的研究

愛育研究所 高橋種昭

目的 今回の調査は現在のわが国の社会的諸階層において、父親たちが幼児の養育に、どのような型で、どの程度に関与しているかという事実の機能的な面から取り上げ、それらのもと社会的階層との間の関係を明らかにしようとするものである。

方法 調査の対象には都内の保育園、幼稚園に通園する三才就学前までの児童の父親を対象にした。人数は保育園関係ケース一七二名幼稚園関係ケース一二名、計二九二名である。調査の方法としては、父親の幼児の教育において果していると考えられる機能を、養育、食事、遊び、教育、衛生、宗教の六つに分類し、各機能ごとに三々四項目の質問項目を設け、四段階に評定するような質問紙を家庭に配布し、両親に記入させた。

結果 調査の結果、次のような傾向がみられた。「食事」については給料生活者が最も高く直接的、間接的に関与し

ている。「養育」についてもやはり給料生活者が最も高い関与度を示しているが、階層的にはむしろ低いものの方が高い傾向がみられる。「遊び」の場合には学歴、階層ともに高いものが関与する率が高く、単純労働に従事する父親は低い。「教育」においては専門的職業に従事する者や給料生活者に高く、学歴の低い者は低い。「衛生」の場合は自営商工業者のような階層に関与度の低い者がみられ、幼児の病氣や怪我に全く関与しないものが多い。「宗教」で目立つ事は、これまでの諸機能において常に低い関与度を示していた筋肉労働者の階層のものが逆に高く、学歴においても学歴が低くなればなるほど関与度は高くなる事実である。

母と子の関係（精神身体医学の立場より）

長野県保育専門学院 竹村計美

保育に際しては、環境条件が重大な影響を及ぼす。とくに母と子の関係は密接なものである。この場合、母と子の関係を精神身体医学の立場から、病氣を通じて、血流中の好酸球数をあしがかりとして調べてみた。

好酸球は白血球の一成分であり、副腎皮質ホルモンの一示標として、その多少、変動の様相より、好酸球数を調べることにより、生体か制機に反応する態度を知ることが出来る。

Stress に際して、すなわち、疫病、外傷、寒冷の変化、精神感動によって、生体の副腎皮質ホルモンの分泌が動員され、好酸球数に変化があらわれる。

幼児の急性疫病、（疫痢、自家中毒症）に際して、幼児と共にそ

の母親の好酸球数を測定した。

病気の極期に著明に減少し、回復期に増加し、治癒期にやや減少（疫病）、治療期に増加（自家中毒症）の経過をとっている。

この子どもの経過の型と共に、病気でない母親も同じ変化を示している。これは母親の精神的の影響が肉体的に相当の変化を与えていることを証明するものである。

子どもの病気が母親に対して精神的 stress として働くことを科学的に究明し得た。

子どもを心配しすぎる母親、過保護の母親の精神的保育が大切であり、子どもを保育する上に環境条件として、母親の精神的環境を考慮に入れて、健康管理の大切な事項として、安全保護に万全を期さねばならない。

父—母—子関係の分析

東京 都立大学 三 浦 武

東京 家政大学 森 重 敏

NHK放送文化研究所 三 輪 正

調査対象 都内の幼稚園児五〇名、小学校三年生四九名とその父および母。

質問項目 「おとうさんはあなたといっしょによく遊んでくれますか」「あなたがたのんだこととおとうさんはいっしょけんめいに行ってくださいますか」など、親子の接触につき日常生活で見られることについて幼児では二八項目、小学三年生では三二項目質問した。（調査C）。お父さんについて子どもにいろいろ聞いたら次に

お母さんについても同じことを聞く。答は「はい」「どちらでもない」「いいえ」の三段階でそれぞれ3点、2点、1点として整理する。次に子どもに聞いたのと対応して大体同じ趣旨のことを父親および母親に聞く。（父親にも必ず聞いた点がこの研究の興味だと思う。これは家庭訪問によらねばならず、苦心した。）（調査A）。次に、こういうことをお子さんに聞いたらお子さんはどのように答えたと思うか、その答え方を父母に想像させて答えてもらった。（調査B）。

資料の整理 われわれの調査項目を親和、保護、意志尊重、圧力という四群にまとめ、それぞれ親和点、保護点などとして算出した。かくして得られたいろいろの得点につきA（父）——C（父）、B（母）——C（母）、A（父）——A（母）などの組み合わせについて検討する。

研究結果 調査Aで父と母を較べると母親の方が「意志尊重」の点が低い。「圧力」では父親の方が圧力をかけていないと思っている。接触総点の平均で見ると父より母の方が点が悪い。

これは質問内容が子どもの日常の世話に関するものだから母親が直接関与することが多いのでこういう結果が出たのではなからうか。

B—Cの絶対値の総和をもって親子間のずれの総量とみると父よりも母の方が子どもとのずれが少ない。母の方が子どもの気持がよくわかっているようだ。保護については父—子のずれが大きく、圧力では母—子のずれが大きい。A—Cでもやはり母—子のずれが大きい。

母親は圧力をかけていないつもりでも子どもは案外母親から強い圧力を感じているようだ。